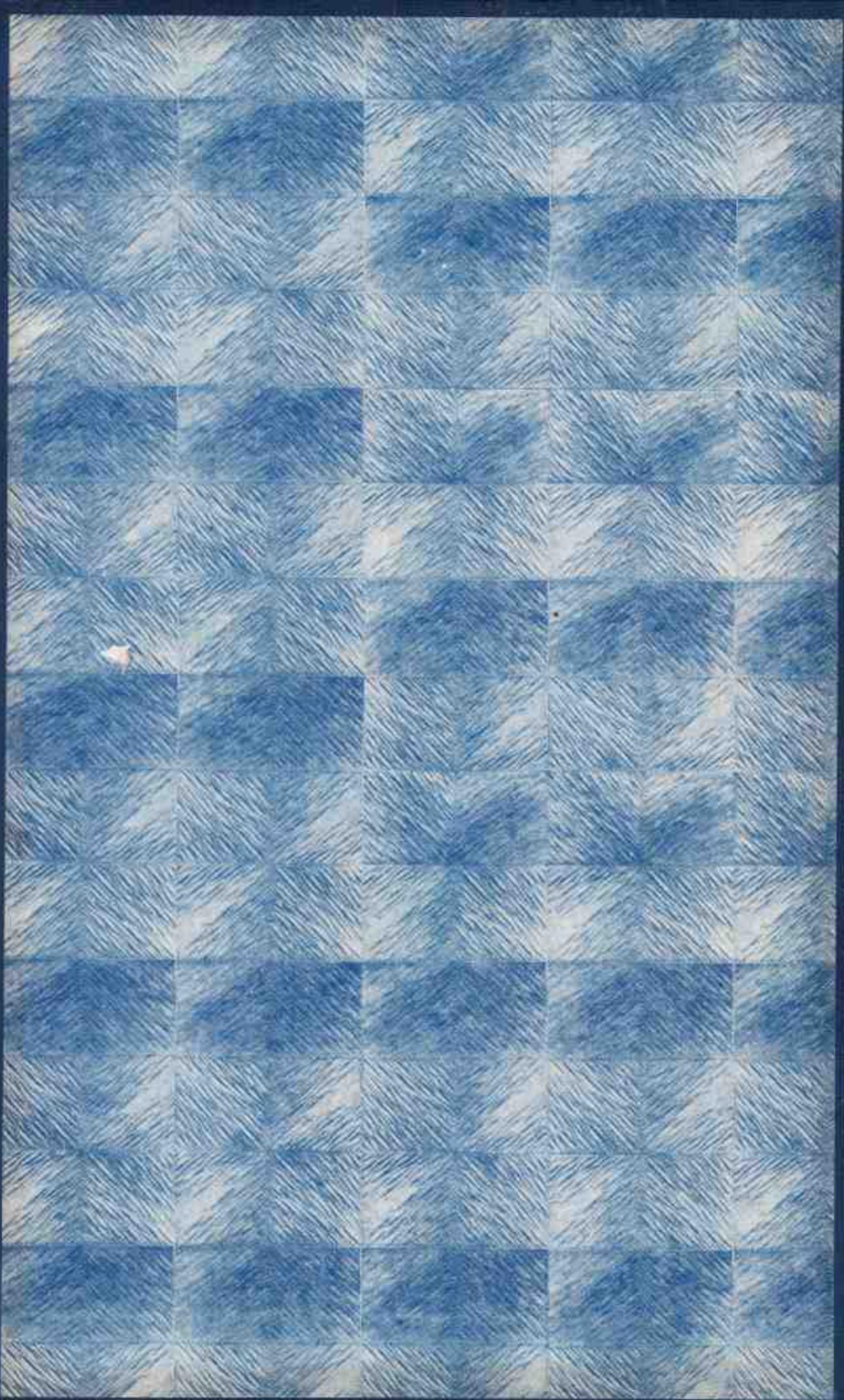
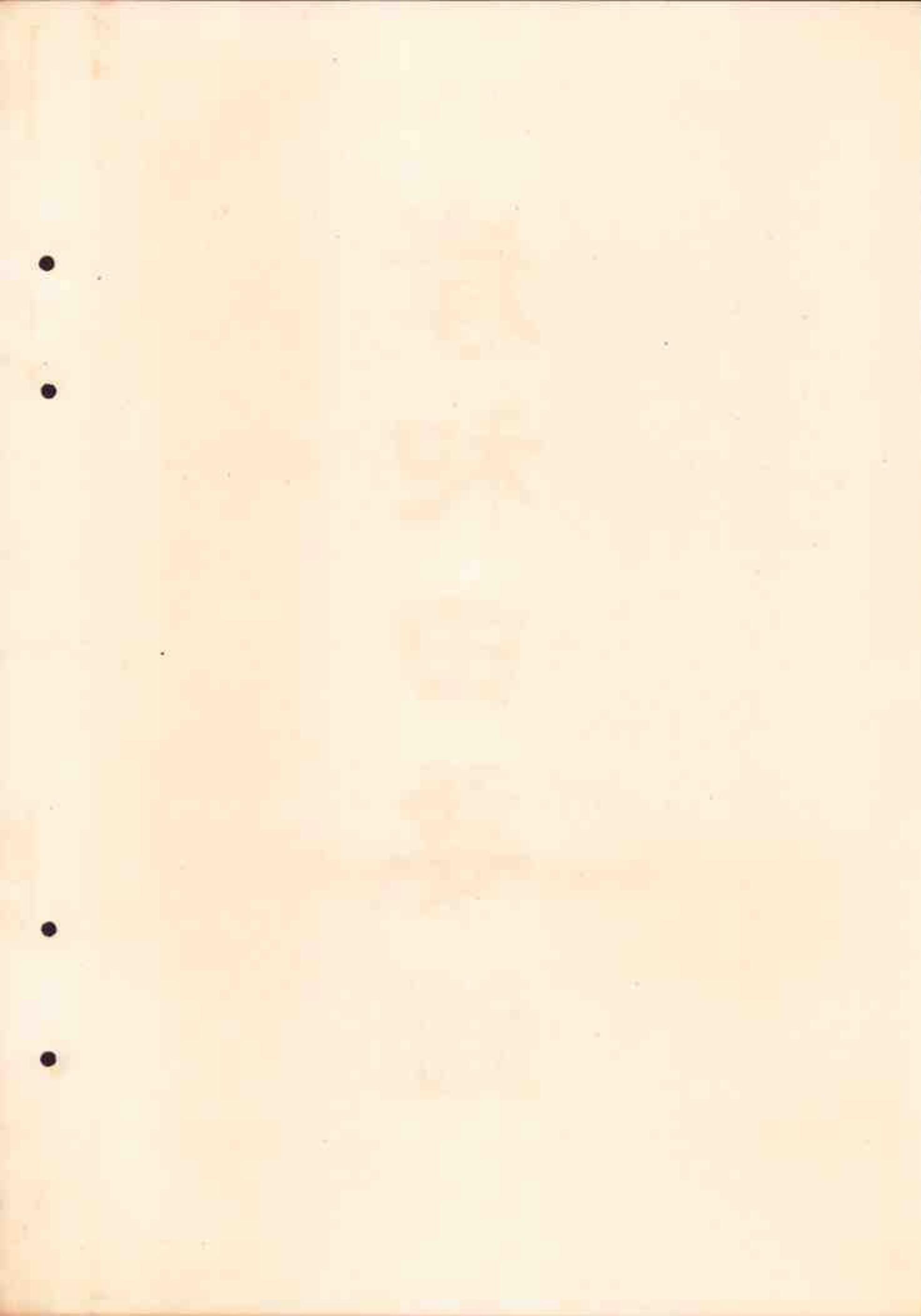


記念刊行
年和
重慶
文書



岸和田要鑑









下圖 皇天治明



下圖 皇天上帝



下圖 仁美



下圖 實政

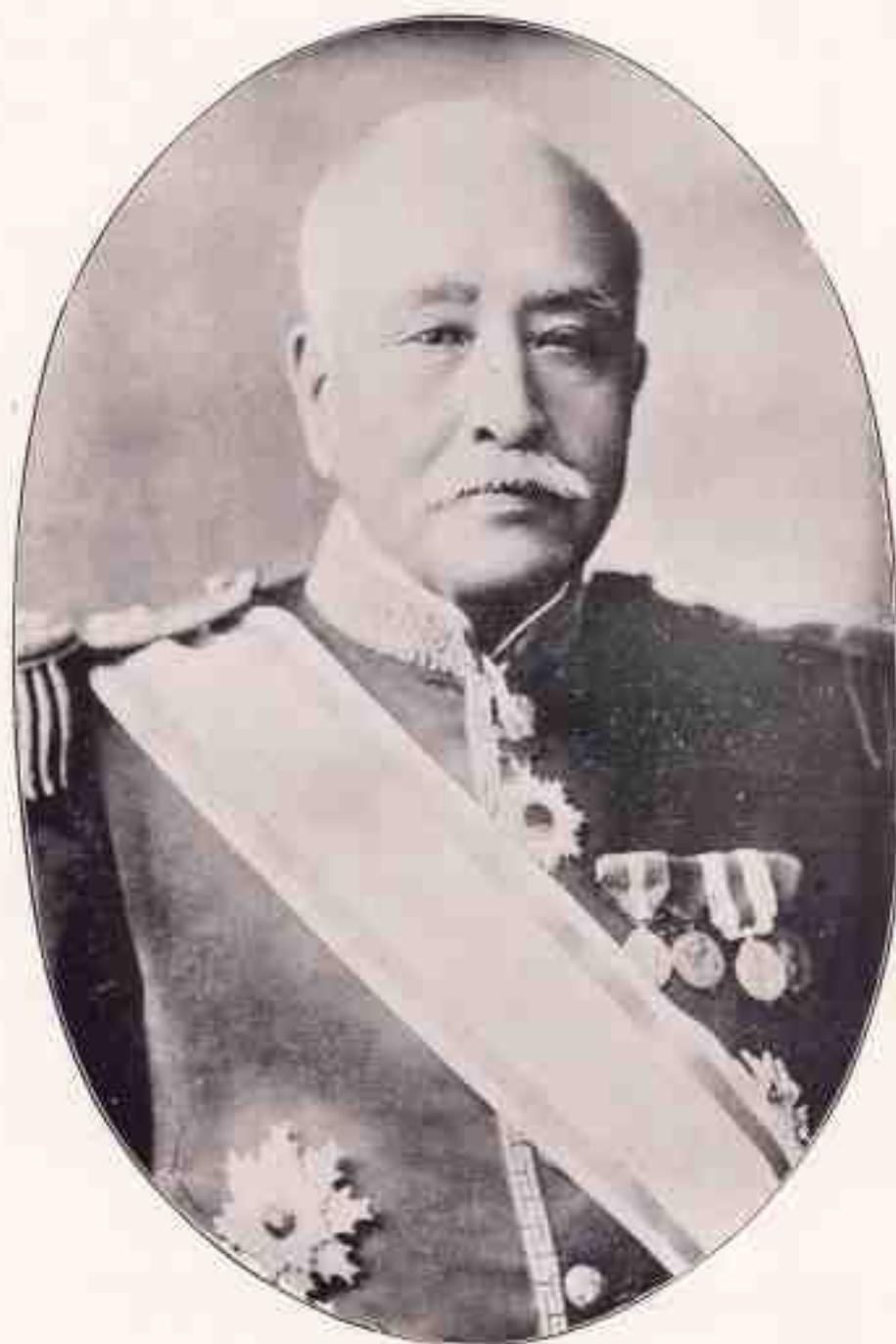


下圖 王室子直



舊藩主
前司法大臣

樞密顧問官子爵岡部長職閣下





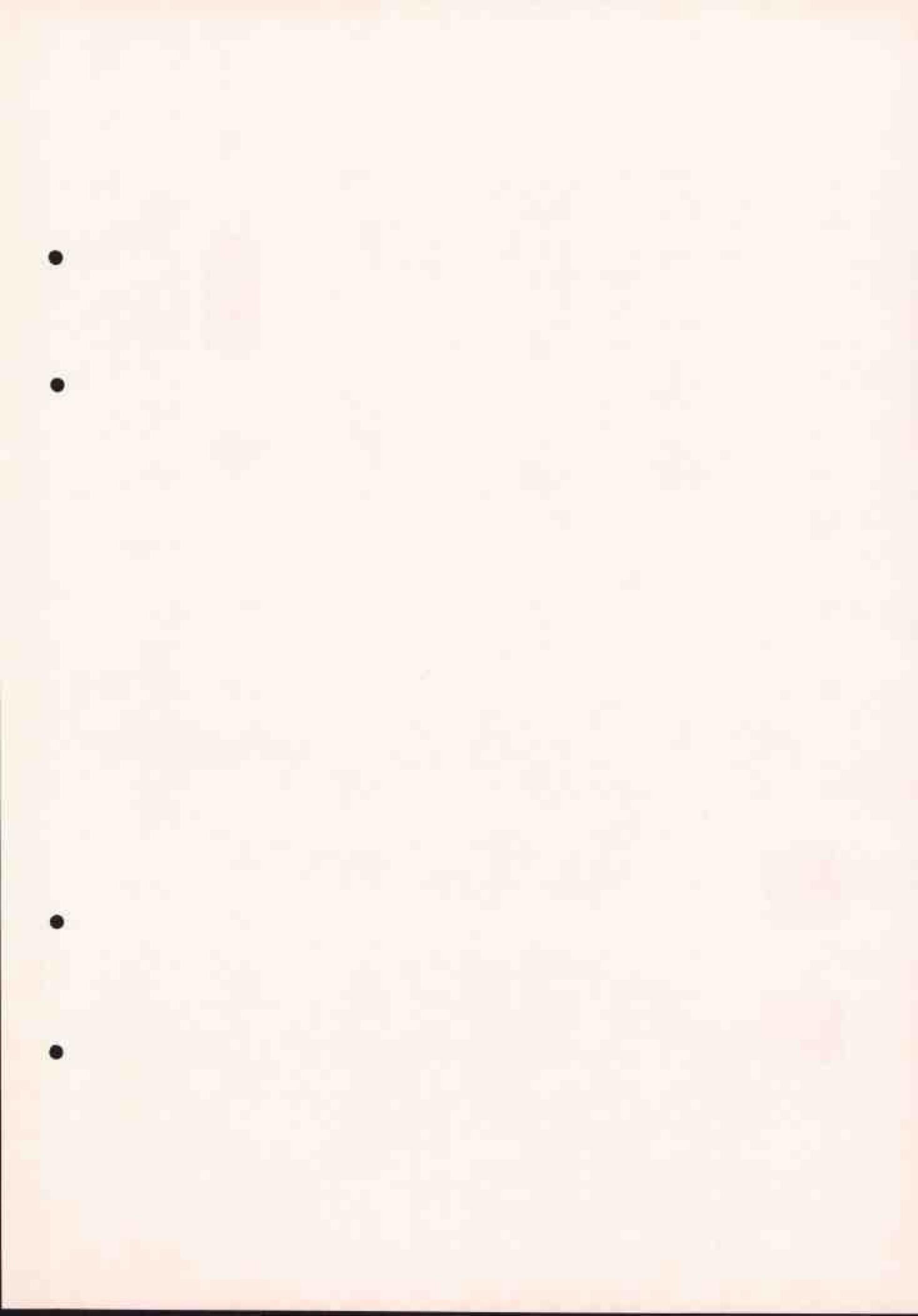
大



海

洋





内務大臣 水野鍊太郎閣下





李

天

成

妙
傳

禪
法

福



前内務大臣 床次竹二郎閣下



家
意

故

未
少
竹
之
也

其
基



大阪府知事 井上孝哉氏



10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

人
和
平
天
地

以
福

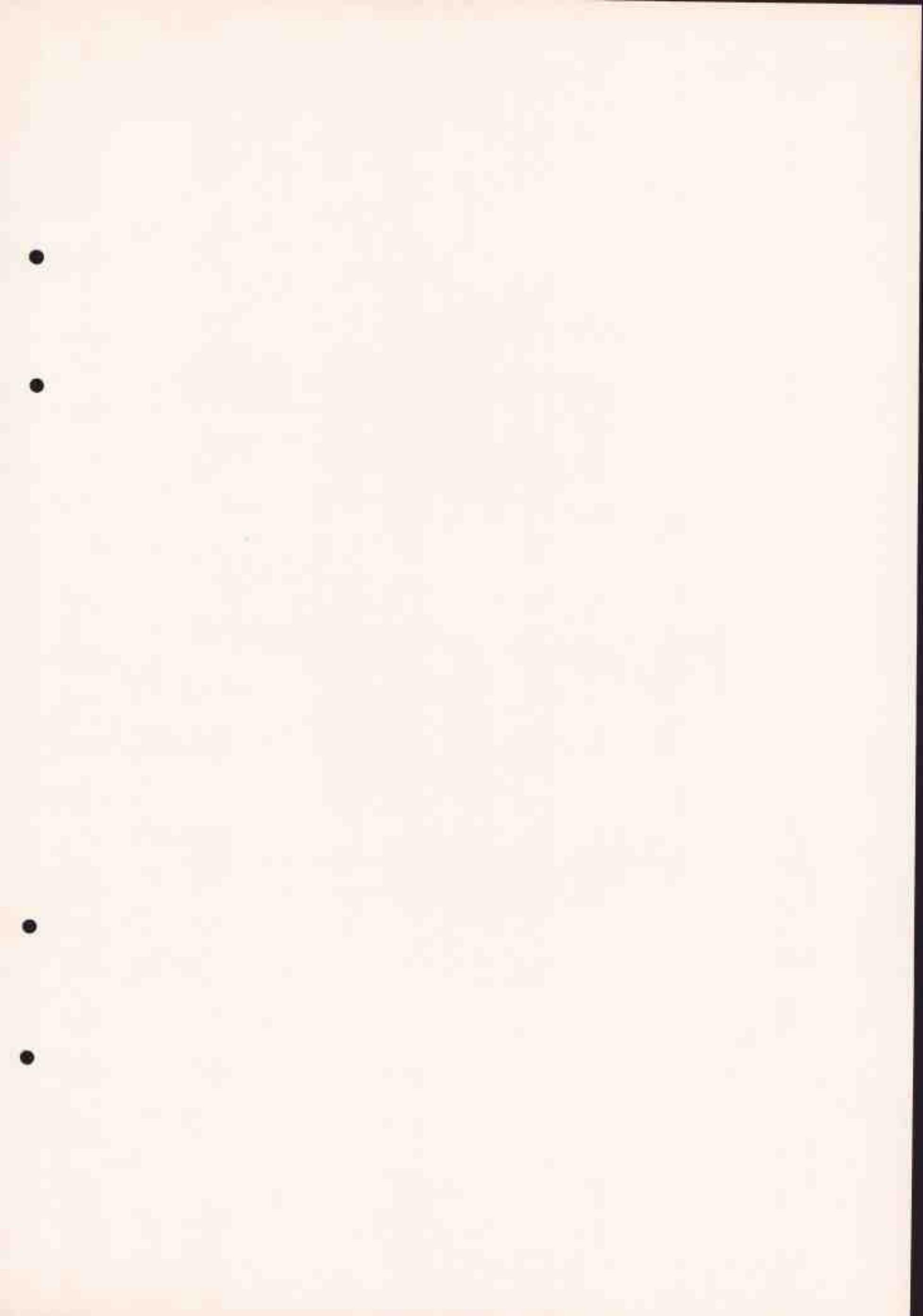
喜
哉





舊藩主岡部子爵令嗣外務書記官 長景氏

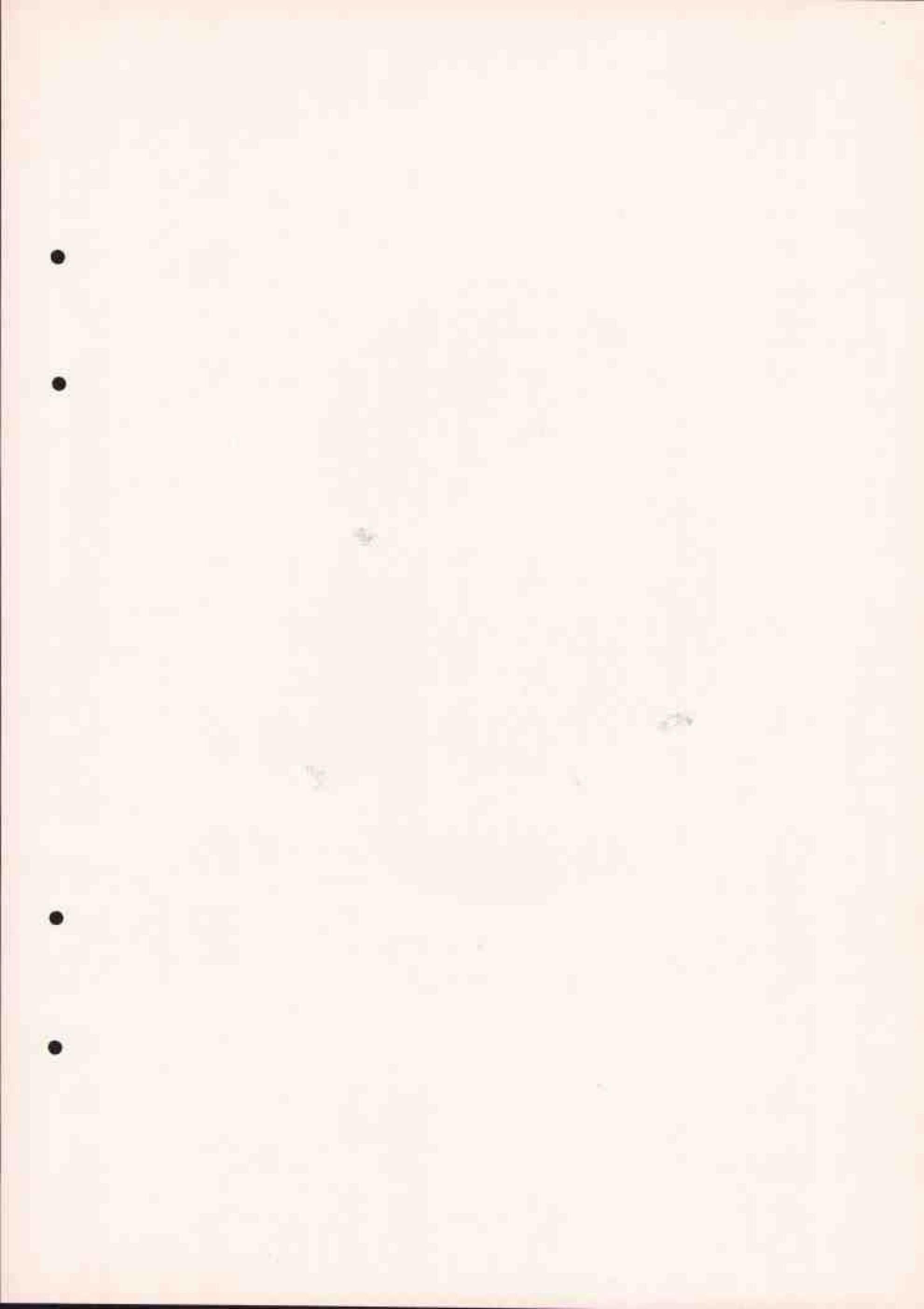






氏舉長山村

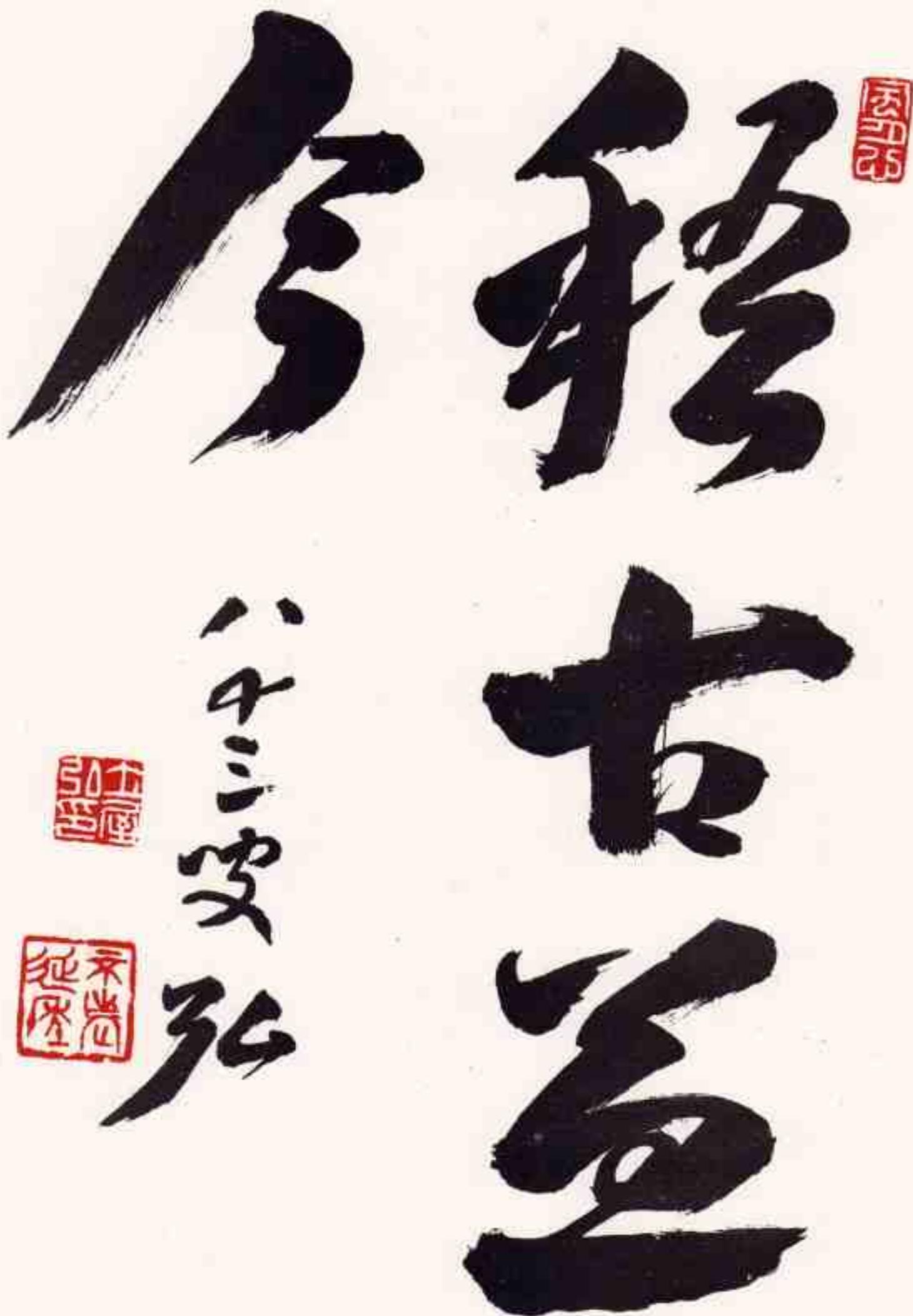
(息令爵子部岡主藩舊)



前待講鳳州土屋弘先生









希大教授
法學博士

松波仁一郎氏





題詞

自治ノ本義明ニ共榮，聲滿ル際岸和田市制成ル
文物產業，發達其形ヲ爲シ萬衆，誠其因ヲ爲ス

要鑑克ク其具體表現ヲ映ス今人現状ヲ知ル可ク
後人當時ヲ探ル可シ余東都ニ居ル四十年本籍
不斷綱地ニ在リ今祝シテ感深シ仍テ識ス

大正十二年五月奉命渡歐前

正四位 松波仁一郎





士博學王
氏郎一純岡今





士博學文授教大京
氏 作 耕 田 濱





長市代初

氏二三二木舟



序文

泉州岸和田は余北郷土也、人文の發達近時顯著、此處に市制を施され獨立都市の班に入り、時偶々推され初代市尹の職小就く、余と一ては職を市尹に求めて來りにあらず、歸りて其職を執るにあらず、豈縦横の感慨深からざるを得んや、岸和田乃如きは實不近畿新鋭の都邑ぶり、地人共に尚多くの将来を有す、栗坂猶存君も乃ち此將来あるべき代慮ひ、遠く岸和田興隆の所以を探り更ふ尤も力を現代の産業と文化の実情に注ぎ、註して以て之を後代に送るべく、岸和田要鑑を編ます、眞に好箇の記念事物なりと信す、余今君の編述を繕き、全體計画構成、君ク幾日月の間、苦心考察の痕跡またるものあるを想ふ、素より机上一夜の雅著と同視すべきにあらず、之を政治理變革史と觀、興業金種史と觀、又民衆發達史とも觀るを得得へく、而して現勢の説明描寫に一段の忠實湛ふるか如し、和田の風光山川と精英實力を斯の如く能く一巻の書中に收め得、了君の勞を多く、前人未、曾て一指を深めざりし新興の都の恣態、其縮寫の業成なるを歎い、益に所感を識りて序と興め岸和田市長舟木二二二

大正癸亥夏月

岸和田市長 舟木 二二二





役助市代初
氏郎一眞本山





掌管務職長市
官事理府阪大
氏介政玉兒



理代役助市
氏成元田菅



長町前
氏郎太龜橋



長郡南泉
氏格下森





長課生衛
氏郎次多塙羽



役人收
氏準藤末



長課木土
氏之義森



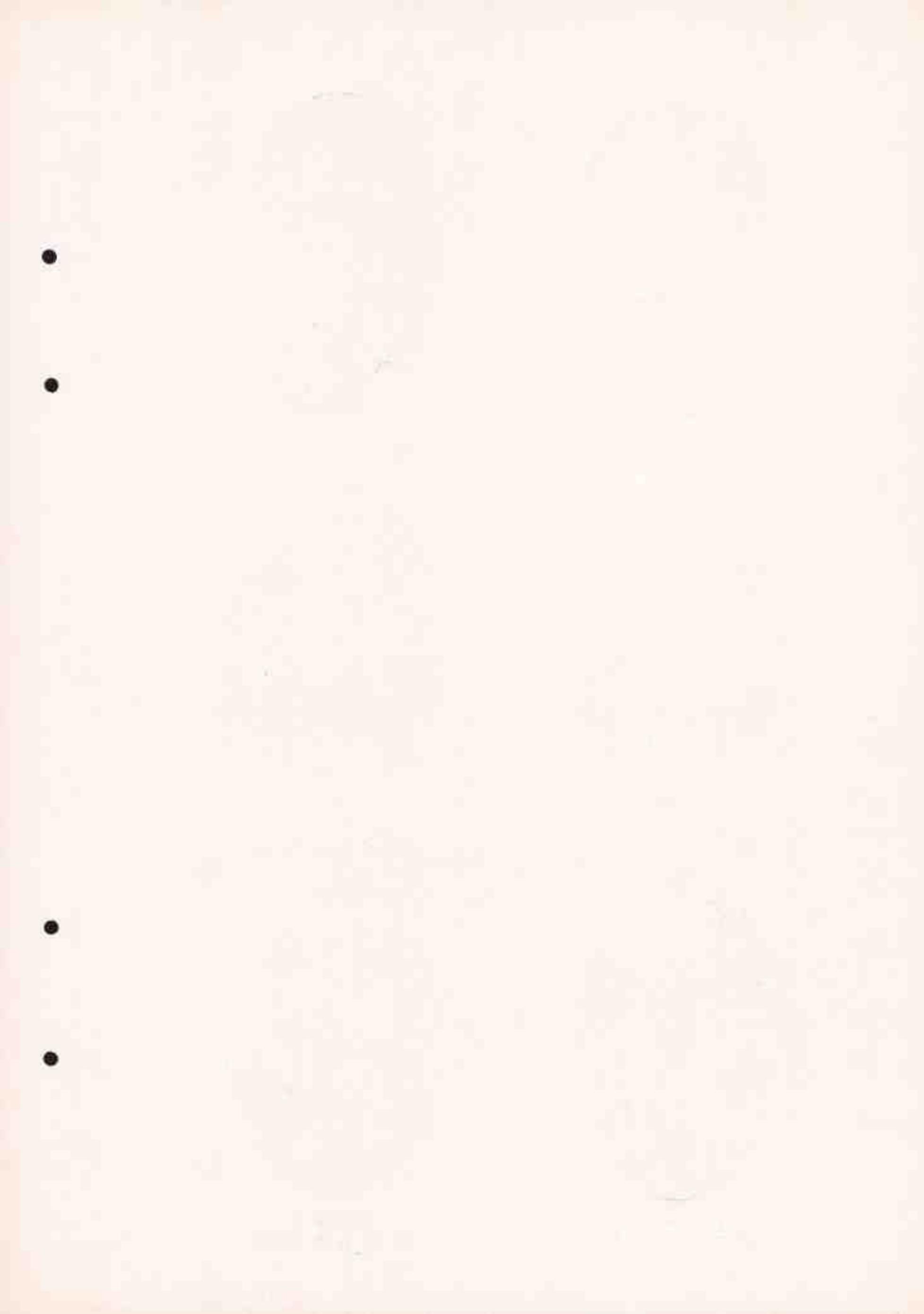
長課務應
氏郎太隆野横



長課籍戸
氏吉伴村辻



長課業產
氏郎太由川前



家業實



氏一亮野字 家業實



氏茂與甚田寺 家業實



氏郎五源井川 士謹辯



氏吉利田寺 家業實



氏吉元田寺 家業實



昌黎

游

水

亮

一

題

游水

昌黎

亮



和

章

辛酉年
丁巳月
立

力
立





王羲之

永

元初

秋







氏郎三宗由 市議會長

氏平利 仁 市議副會長

氏光豊阪井 員議院議員

氏一正崎川 員議會長



序文
をか岸和田の市制施行せられ、ふと期
間と志栗坂猶存夫は岸和田市役所を編り其期
間遷を記し今之れを繙くに遠く岸和田比
較の正確なことを載せそ現時乃政治實情と產業比較
すことを得て君に於て調査の周到ふふと其考
の成り立季、予古君にて初見て之れを
業の成功へく其苦心の痕跡たるを歎い茲に
識して序文を附れを
岸和田市會議長 山田宗三郎





長部事幹田和岸會人婦國斐
人夫子几木舟



長合組業同物織郡南泉
氏平德村岸



長會成思
氏助之元川寺



長會人婦田和岸
人夫子春岡山



長會分田和岸會人軍娜在
氏郎三與櫻大



員議會市



氏郎太馬野佐員會事參



氏郎一字村中員會事參



氏吉定浪松員會事參



氏郎次音舟浮員會事參



氏郎太佐奧員會事參



氏吉之猪納金員會事參



市議會議員



氏 楠 代 田



氏 藏 良 田 烏



氏 七 弥 田 內



氏 助 之 莽 合 落



氏 郎 次 熊 谷 松



氏 郎 一 斗 浦 北



員議會市



岸田喜代門 氏



學務委員員松原寅次郎 氏



堆安之助 氏



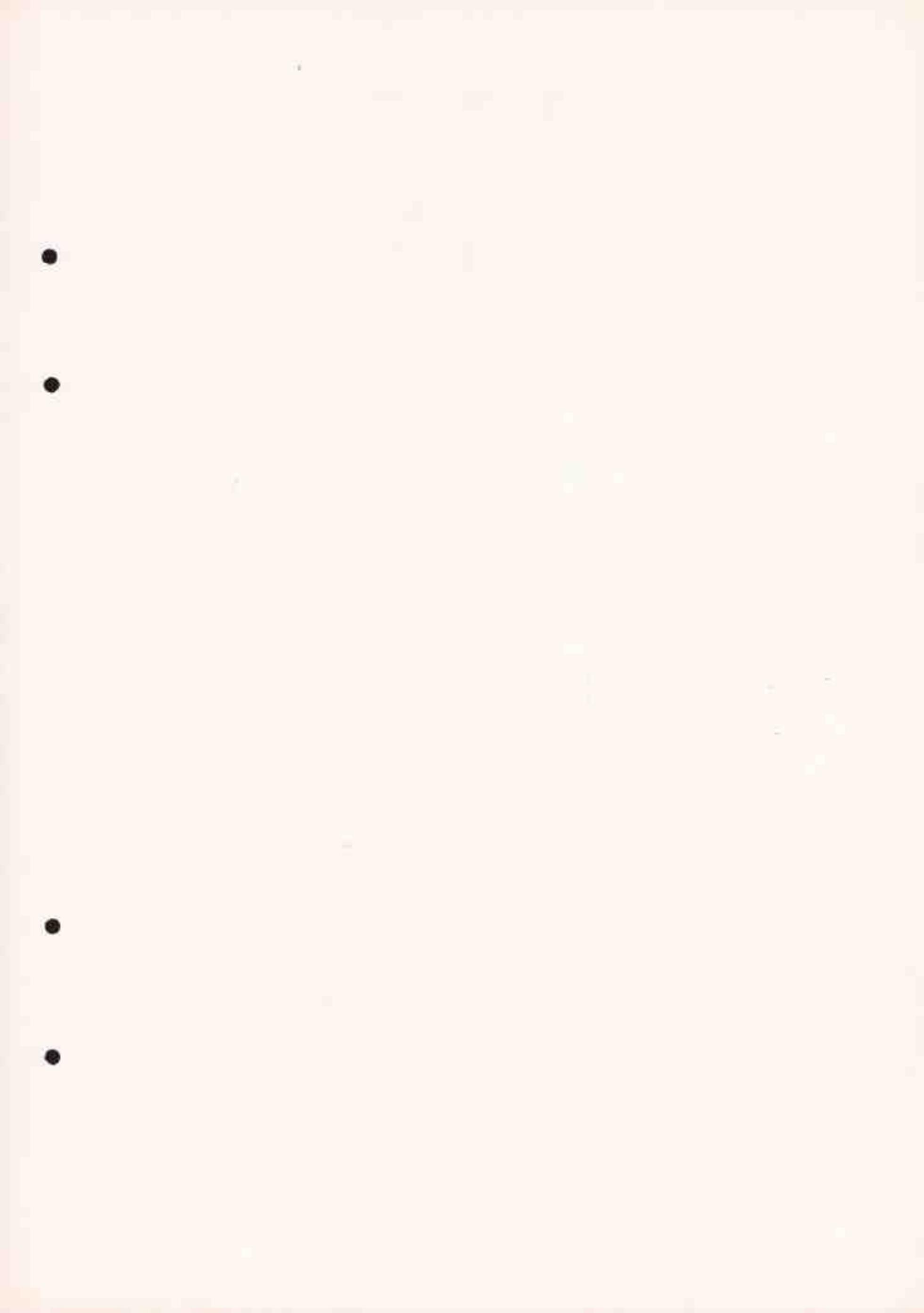
岸村齊氏 氏



篭烏庄一郎 氏



西房吉 氏



員議會市



氏藏半生土



氏平治日坂



氏助伊谷鹽



氏郎太吉塙十



氏郎太儀東



氏一十木榮



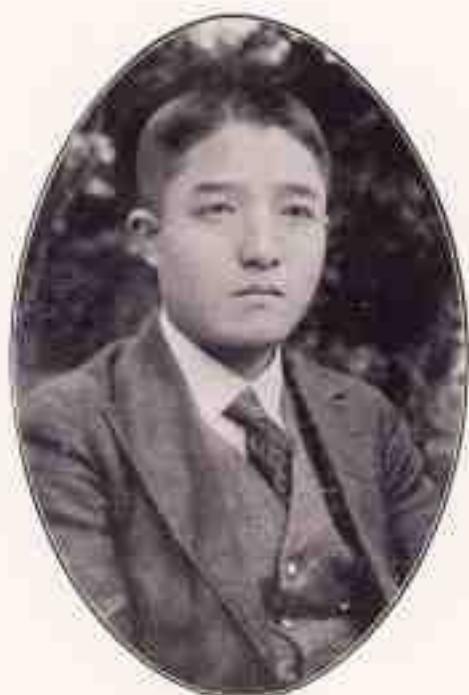
員 議 會 市



氏 定 清 崎 川



氏 郎 太 市 上 岸



氏 郎 三 宇 奥
長 記 書 會 市



氏 郎 太 松 口 川



过全男

山下清吉

森野紀一郎

铃木猪吉

新井良輔

鈴木清一

佐藤喜助

柴义一
产

柴木十一

福本信二郎

佐古源平

田中良一

川

作

岸村青

内田
称七

田中良一

川

作

岸村青

川

作

岸村青

川

作

川峰一郎

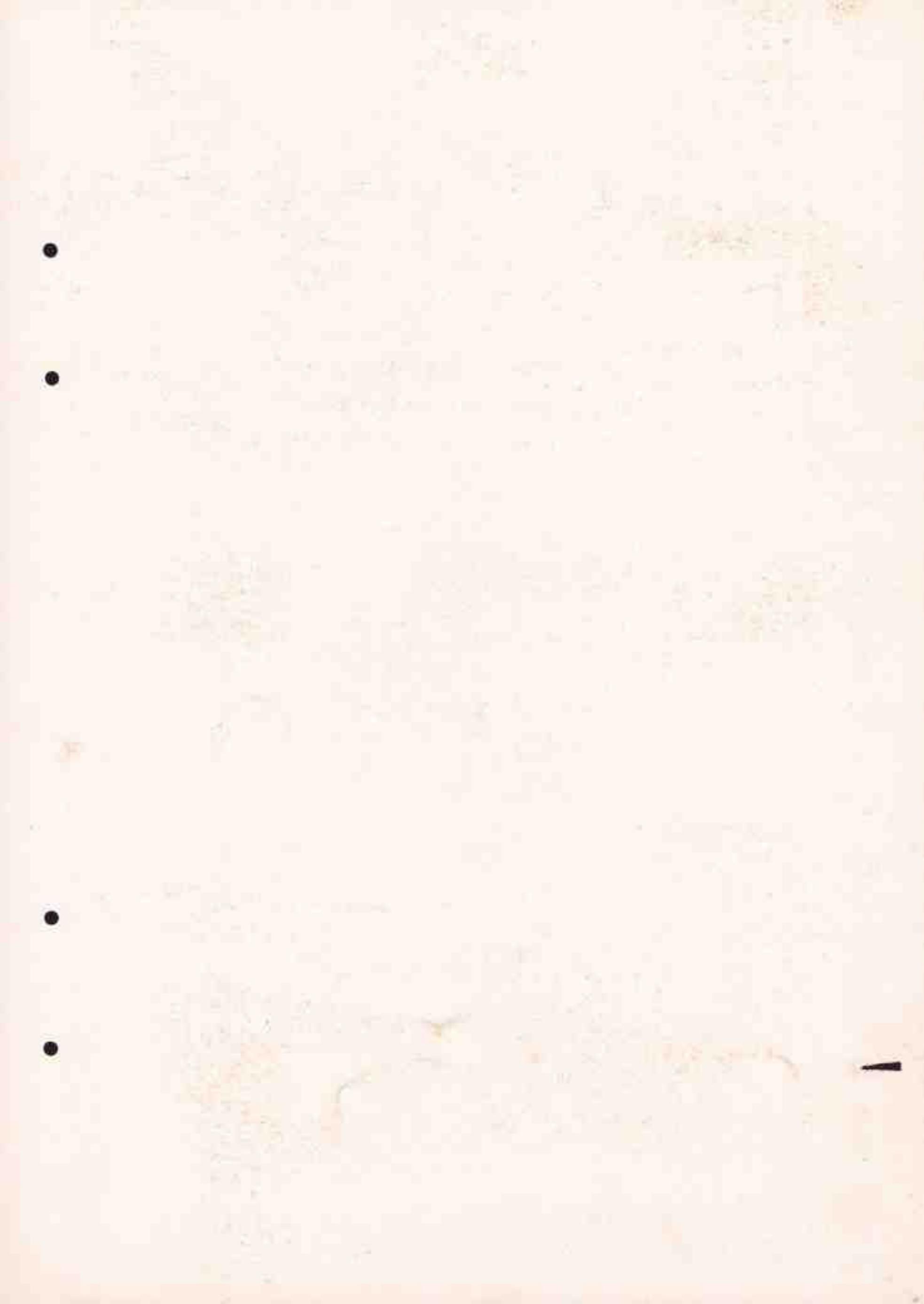
川

作

岸村青

川

作





員委務學
氏一良中田



員委務學
氏吉惣田岡



學視市
氏郎治市坂脇



員委務學
氏郎一惣林小



員委務學
氏八觀内宮



◆慨然として來り、市制記念章和田實翁の輯寫を感佩せる。我が別荘子が、由來二年有半の歲月は決して平々凡々の短日月にあらずし也。此統的後が内面を知れる余としては、相共此感情を聞からしむ。重もすれば聞る事處に難はりがちなる。謹篤・中庸・流言・禁制、凡ゆる魔手が憚して、或時の度は馬鹿らしき社言も流じた、大如れぬ若叟も併めた、貧乏とも附つた、百の障害にも支へべく努力も盡した。故にたり、笑ふたり、愁つたり、悲んだり、樂んだり、罷つたり。而して其間彼は皆勢の一角より詰かに全道を睥睨し、百難あることに彼が性向の獨特性に格加を率した。尙培典任庭元氣骨を備する潔寒と、燃ゆるが如き情熱の薪を以て、遂に本編の刊行を完成し得たのである。驚嘆の聲、絶の結造である。稀た神火・感慨亦無量。

◆大方の期待に耐ふや否や、或て本編の崩壊する所でない。本編は即ち並闇の史乘である。其軸の如き實しく天下後世に委して可也。蓋し社制は第三者を介つて公正直と構する、要歸結為士の尊節を遺憾なく權威させたく思ふが所以也。若し夫れ天下後世の批判が、假し如何に鋭敏を算るも、夫れは決して猶君子間員の毀譽褒貶ではなくて、寧ろ嘉苦を供にせられし同人諸子と、當然援助を寄與せられたる諸士、更に又謹篤・中庸・流言・禁制、凡ゆる魔手を弄して、且て本編纂に迫害を試みられし人々の罪任すべき、功罪たる事を一言しておきたいのである。



有制
記念

岸和田要鑑編纂所同人

堀辰竹治郎(晴存) 高橋國治

堀深太郎(晴廿)

木村榮(青城) 立花久之助

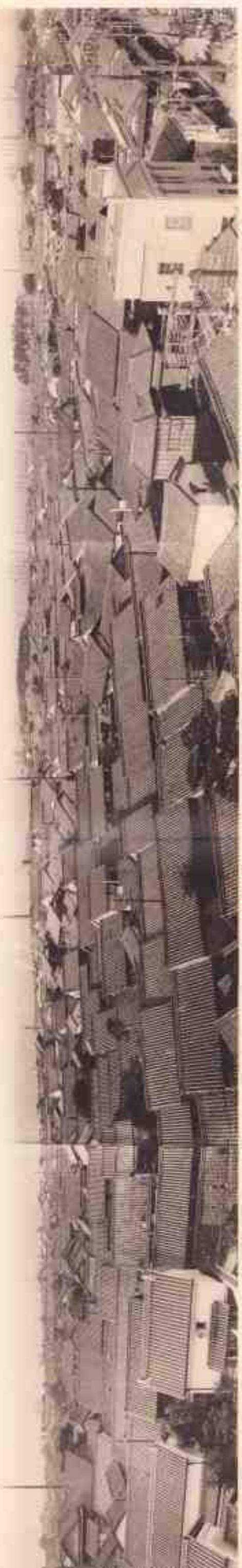




岸和田市街全景



岸和田市街全景



所役市田和岸

